

(案)

守創委第5号  
令和3年3月16日

守口市長 西端 勝樹 様

守口市まち・ひと・しごと創生委員会  
委員長 眞鍋 昇

第2期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略について（答申）

令和2年7月8日付け守企第106号で諮問のありました第2期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、守口市まち・ひと・しごと創生委員会条例第2条の規定に基づき、調査審議した結果を別紙のとおり答申します。



# 第2期守口市まち・ひと・しごと創生総 合戦略の策定に係る答申にあたって

令和 3年 3月

守口市まち・ひと・しごと創生委員会



## 目次

1. 答申にあたって .....	6
2. 答申 .....	7
3. 審議における各委員の意見と答申への反映事項 .....	7
(1) 戦略の構成等 .....	7
(2) 人口動態 .....	8
(3) 暮らし .....	8
(4) 情報発信 .....	8
(5) 子育て .....	12
(6) 教育 .....	13
(7) 安心・安全 .....	14
(8) 住まい .....	15
(9) 産業 .....	15
(10) 具体的な施策 .....	15
3. 審議経過 .....	17
4. 守口市まち・ひと・しごと創生委員会 委員 .....	18

## 1. 答申にあたって

国の地方創生の取組に合わせ、守口市では、平成 27 年度（2015 年）に「守口市人口ビジョン」及び「守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）を策定されました。

総合戦略では、守口創生の基本理念として「安心・快適・便利に子育てできるまち・守口」が掲げられ、その理念に基づき 4 つの基本目標を設定し、様々な施策を推進することで地方創生に取り組まれています。

今般、現行の総合戦略が令和 2 年度末で終期を迎えることから、令和 3 年度以降における新たな守口創生の取組の推進にあたっての次期総合戦略の策定に向け、当委員会は、令和 2 年 7 月 8 日に、西端勝樹市長から「第 2 期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略について」の諮問を受けたところです。

諮問を受け、当委員会では、令和 3 年度にスタートする守口市の最上位計画であり、今後のまちづくりに向けた羅針盤となる第 6 次守口市総合基本計画との整合性に十分に留意しつつ、更なる守口市の持続可能な発展を図るため、新たな守口創生の基本理念や、それに基づく 4 つの基本目標、取組の基本的方向性、K P I 及び具体的な取組について、慎重に審議を進めてきました。

つきましては、次のとおり第 2 期総合戦略（案）をとりまとめましたので、答申します。

本答申の内容を今後の施策に十分に活かしていただくことにより、「魅力ある定住のまち もりぐち」の実現を図り、持続可能なまちづくりに繋げていただくことを期待いたします。

なお、今後とも各委員それぞれの立場において、守口創生に向けた取組を貴職とともに推進するため、諮問のありました事項のうち、総合戦略等の進捗状況を踏まえた効果検証等について引き続き意見を申し上げるものです。

令和 3 年 3 月 1 6 日

守口市まち・ひと・しごと創生委員会

委員長 眞鍋 昇

## 2. 答申

別添の守口市人口ビジョン（令和3年3月改訂版）（案）及び第2期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）のとおり

## 3. 審議における各委員の意見と答申への反映事項

### （1）戦略の構成等

当委員会の所見	答申への反映事項
<p>・教育に関する取組に特化した掲載はできないと考えるが、取組内容を絞り込んだ戦略としてもいいのではないか。</p>	<p>人口減少に歯止めをかけ、守口創生を実現するため、子育てや教育に特化した取組を掲載した。</p>
<p>・第2期戦略の取組の体系は、非常に理解しやすく、かつ簡潔にまとめられていると評価している。また、第1期戦略と比較し、取組内容に絞り込みがかけられており、「若い世代」、「子ども」、「子育て」、「住宅」というキーワードのもと、多様な議論がある中において、一つの方向性を見出している。</p> <p>本戦略の示す方向性が市民の皆さんによく伝わり、はっきりとさせるため、守口市の魅力に触れつつ定住し、人生を歩んでいく市民の皆さんのモデルケースに関し、設定した各基本目標に触れながらストーリーを提示してみてもどうか。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆第2期戦略を通じて実現をめざす守口市の皆さんの生活イメージとして、4つのストーリーを掲載した。（P.27~30）</p>
<p>・「若い世代」などの表現に関し、本戦略が指し示す定義を明確にするべき。</p>	<p>巻末に、用語の定義を記載した。</p>
<p>・第2期戦略は、写真が多用され、見やすく、分かりやすいものとなっている。</p> <p>既に尖った戦略となっていると考える。産官学連携等での意見を徴しながら、施策推進を図りたい。</p>	<p>令和3年度以降においても、創生委員会において、産・官・学・金・労・言のそれぞれの立場から意見を徴し、取組を継続した。</p>

(2) 人口動態

当委員会の所見	答申への反映事項
<p>・子育て施策の経済的負担の軽減に特化した施策の継続が、人口増加に貢献しているのか分析すべき。市外への転出理由を詳細に分析することも必要。</p>	<p>本市における人口移動の状況を分析し、就学前に転出する方がおられる状況など、課題を整理し、当該分析内容を本戦略の具体的な取組を考察する上で、重要な資料として取り扱う。</p>

(3) 暮らし

当委員会の所見	答申への反映事項
<p>・新型コロナウイルスに関する項目を盛り込むべき。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆新しい生活様式の実践に向けた働きやすい環境の整備 (P.54)</p>

(4) 情報発信

当委員会の所見	答申への反映事項
<p>守口市のイメージの「まちのイメージ」が改善傾向にあるが、更なる改善のための取組が必要。</p> <p>守口市は、就学前の子どもがいる世帯の定着に課題があると認識しており、その課題に対応する取組に今後とも努められたい。</p> <p>その中で、子育て支援の対象年齢について、就学後における支援の更なる充実について今後考察する必要がある。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p><b>【まちのイメージと定住促進に関する取組】</b></p> <p>◆守口市の魅力を広く発信するシティプロモーション活動の展開 (P.43)</p> <p>◆守口市の地域毎の様々な魅力情報を把握・発信する取組 (P.43)</p> <p>◆守口市の資源を最大限に活用したまちの魅力の発信 (P.44)</p> <p>◆公民連携による、新たな広報媒体やSNSなどを活用し、まちの魅力の更なる発信 (P.44)</p> <p>◆小中学生に対する地域学習を強化し、郷土愛を育む (P.44)</p> <p>◆守口に新しく住み、働き始めた人に、守口市の魅力を伝える (P.44)</p> <p><b>【就学後における更なる支援の充実】</b></p> <p>◆学力向上に向けた取組 (P.59)</p> <p>◆ICTを活用した教育の充実 (P.60)</p> <p>◆読書に親しむ環境づくり (P.60)</p> <p>◆子どもを守るネットワークの確立 (P.61)</p> <p>◆食育の充実 (P.61)</p>

	<p>◆学校・家庭・地域が一体となった学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の推進（P.61）</p>
<p>・市民の皆さんが守口市に更なる愛着と誇りを感じていただくため、まちの歴史など市民の誇りになるような事象を宣伝・発信するべき。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆市民が守口市に愛着・誇りを感じる機会づくり（P.65）</p>
<p>・守口市は、様々な施策を実施しているもののその内容が市内外に届いていない。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆守口市の魅力を広く発信するシティプロモーション活動の展開（P.43）</p>
<p>・守口市の「まちの魅力」に関する知識と情報の蓄積が、市民の皆さんの守口市に対する誇りや愛着に比例すると考える。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆守口市に転入したくなる、もしくは転入後の良いイメージができる魅力的な情報発信（P.40）</p> <p>◆小中学生に対する地域学習を強化し、郷土愛を育む（P.44）</p> <p>◆守口に新しく住み、働き始めた人に、守口市の魅力を伝える（P.44）</p> <p>◆市民が守口市に愛着・誇りを感じる機会づくり（P.65）</p> <p>◆産官学の連携による守口市の魅力再発見（P.66）</p>
<p>・守口市からの転出超過が数値として示されている就学直後の世帯については、課題がはっきりとしていると考える。</p> <p>その方策の一つとして、就学直後も引き続き守口市に住まわれることを選択された方に、守口市の魅力を聞くことも大切ではないかと考える。</p> <p>加えて、その内容を情報発信し、課題の解決につなげることも大切。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆産官学の連携による守口市の魅力再発見（P.66）</p>

<p>・大阪府にある4大緑地の1つである鶴見緑地公園が守口市域にあるということをもっとPRすべき。</p> <p>平成30年度にリニューアルした大枝公園だけでなく、鶴見緑地公園もとても貴重な資源だと考える。</p> <p>コロナ禍の中にあっても、緑地という大きな空間は地域の魅力を高める非常に大きな資源。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆守口市の資源を最大限に活用したまちの魅力の発信（P.44）</p> <p>◆身近な自然に親しめる機会の充実（P.55）</p>
<p>・守口市はとても住みやすく、治安も悪いとは思えない。ただ、市外の方は、守口市に良いイメージを持っている人が少ないのではないかと考えることから、守口市の良いイメージの更なる情報発信は大切。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆守口市の魅力を広く発信するシティプロモーション活動の展開（P.43）</p> <p>◆公民連携による、新たな広報媒体やSNSなどを活用し、まちの魅力の更なる発信（P.44）</p>
<p>・守口市に良いイメージがない要素の一つとして、公園がきれいではないという点がある。以前、在住していた自治体では、自治会との協力の下で公園がきれいに保たれていた。守口市においてもそれらの取組の更なる強化が大切。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆公園やまちを美しく保つための取組（P.47）</p> <p>◆公園の計画的な整備・改修（P.55）</p>
<p>・第2期戦略の取組の体系については、分かりやすくまとめられており、読み手に伝わりやすくなっている。総合戦略の策定において「ブランド」というキーワードがあるが、守口市においては、ブランド価値の向上が必要であると考え。</p> <p>ブランドの価値はイメージに立脚しており、良いイメージであれば、ブランド化には有利であり、その実現には、戦略が必要。</p> <p>そのためには、他の自治体にはない取組を行うことが必要で、その取組を第2期戦略に位置付けていただきたい。</p> <p>守口市においてそのキーワードは、「子ども」である。</p> <p>特色ある行政サービスを情報発信し、ブランドイメージを持たせながらの情報発信を一考すべき。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆守口市に転入したくなる、もしくは転入後の良いイメージができる魅力的な情報発信（P.40）</p> <p>◆守口市の魅力を広く発信するシティプロモーション活動の展開（P.43）</p> <p>◆守口市の地域毎の様々な魅力情報を把握・発信する取組（P.43）</p> <p>◆守口市の資源を最大限に活用したまちの魅力の発信（P.44）</p> <p>◆公民連携による、新たな広報媒体やSNSなどを活用し、まちの魅力の更なる発信（P.44）</p> <p>◆幼児教育・保育の無償化への取組（P.52）</p>

<p>・ブランドは創るものではなく、ブランド価値を創造するということ。守口市のブランド価値を高める取組に係る定義について共通認識を持って進めていく必要がある。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆守口市の魅力を広く発信するシティプロモーション活動の展開（P.43）</p>
<p>・守口市のホームページは様々な情報を調査する上では、たくさんの情報が掲載されていることから優れていると考えるが、守口市を分かりやすく知ってもらえるような構成にはなっていない。</p> <p>例えば、戦略素案において、守口市民の物語的なストーリーの掲載があるが、この内容をホームページに掲載し、ストーリーの中から子育ての情報にリンクをつないでいくなどの工夫を行うことで、よりシンプルで分かりやすい構成とすべきであるとする。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆守口市の魅力を広く発信するシティプロモーション活動の展開（P.43）</p> <p>◆第2期戦略を通じて実現をめざす守口市民の皆さんの生活イメージとして、4つのストーリーを掲載（P.27~30）</p>
<p>・戦略素案に3つのストーリーが掲載されているが、全て子どもがいる世帯の設定となっている。例えば、4つ目のストーリーとして高齢者の方からの目線でのストーリーを作成し、長年住んでいる守口市が良いまちになってきたので、自分の子どもを呼び寄せ、一緒に住みたい気持ちになったというような構成のストーリーを加えてもよいのではないか。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆第2期戦略を通じて実現をめざす守口市民の皆さんの生活イメージとして、4つ目のストーリーを掲載（P.27~30）</p>
<p>・守口市内に20局程度の郵便局があり、守口郵便局だけでなく、市内の局を上手く活用して、市と連携して、色々な情報発信をしていくのではないかと考える。</p> <p>また、市外から人が来てもらう工夫が重要。市外から来てもらって、体験をしてもらって、守口市を知ってもらうという、定住のきっかけを創出することも大切であるとする。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆公民連携による、新たな広報媒体やSNSなどを活用し、まちの魅力の更なる発信（P.44）</p>
<p>・まちの歴史や文化を市民の皆さんに情報発信する必要がある。学校教育の充実と文化に関する情報発信を併せて実行することが大切。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆小中学生に対する地域学習を強化し、郷土愛を育む（P.44）</p> <p>◆市民が守口市に愛着・誇りを感じる機会づくり（P.65）</p>

(5) 子育て

当委員会の所見	答申への反映事項
<p>・子育て世代は、他市もターゲットにしている。他の自治体では取り組んでいない特色ある施策により差別化を図ることが大切。施策の「選択と集中」を図ることが大切。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援 (P.39)</p>
<p>・0歳児から4歳児までが転入超過となっていることは、第1期戦略の政策効果が表れており、評価できる。</p>	<p>第2期戦略において、「第1期戦略の成果」と「第2期戦略の主要課題」について分析を実施し、戦略内容を策定した。</p>
<p>・広報誌において、乳幼児や高齢者対象のイベントは見受けられるが、子ども(小学生)対象のイベントは少なく感じる。</p> <p>以前に在住していた自治体では、子ども対象のイベントが多くあった印象があるので、その充実に関しても一考されたい。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆産官学連携による、子どもたちが熱中できる機会の提供 (P.62)</p> <p>◆子どもが楽しめるイベント等の充実とその情報を発信します。(P.62)</p>
<p>・守口市では、小学校の登校に係る役割分担がある。そのような役割分担が守口市への引越しの足枷になっていないか懸念がある。また、ごみの手数料が高額なように感じるので気になるところ。</p>	<p>守口市の近隣自治体の状況を分析し、今後の具体的な施策に取り入れる。</p>
<p>・子ども自身の意欲が最も重要であると考えており、その意欲に応えていくための最低限のインフラを市で準備していただく必要があると考えているので、しっかりと推進してほしい。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆産官学連携による、子どもたちが熱中できる機会の提供 (P.62)</p>
<p>・令和2年6月1日に、市立図書館が開館したが、子ども向けのイベントが少なく、また、イベントそのものの情報発信も弱いように感じるので、今後の取組に期待したい。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆読書に親しむ環境づくり (P.60)</p> <p>◆子どもが楽しめるイベント等の充実とその情報を発信します。(P.62)</p>
<p>・妊娠して子どもを持つことに対して漠然とした不安がある。そのような方を対象として、将来子どもを持ちたいと思ってもらえるようなイベントの開催や気軽に相談にのってもらえるような相談窓口があれば良いと考えることから、戦略素案の中の取組の1つとして位置づけられたい。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆ライフデザインセミナーの開催と相談等による情報提供の充実 (P.38)</p> <p>◆妊娠・出産についての情報提供・相談 (P.39)</p> <p>◆妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援 (P.39)</p> <p>◆ワーク・ライフ・バランスのとれた職場づくりに向けた相談や情報提供 (P.54)</p>

<p>・住み替えの機会として、子どもが5歳になる時と中学校に入る時がタイミングとなることが多い。住み替え先を選択するポイントとして校区の良さがある。それを踏まえれば学力向上は大切。</p> <p>ただし、学力向上への取組のみならず、保護者と学校が連携を密にすることが大切で市として市のサポートも重要。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆学力向上に向けた取組（P.59）</p> <p>◆学校・家庭・地域が一体となった学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の推進（P.61）</p>
<p>・私は商工会議所として、地元企業などと一緒に仕事をする機会も多く、イベントを上手く発信するためには、「子ども」というキーワードが大切。</p> <p>守口市のまちの成り立ちは、大手電機メーカーの城下町として、ものづくりの製造業から始まったが、第2期戦略においては、定住のまちとしての発展を前面に押し出している。</p> <p>それら取組を行う上で、市のみならずあらゆる主体と連携して実施することが大切。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆産官学連携による、子どもたちが熱中できる機会の提供（P.62）</p>

(6) 教育

当委員会の所見	答申への反映事項
<p>・就学児への支援がますます大切。他市の就学児のいるファミリー層に住み替え先として選択いただけるような施策をするべき。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆学力向上に向けた取組（P.59）</p>
<p>・守口市が保育無償化なので、守口市に転入したが、子どもが大きくなったら学力レベルが高いイメージのある北摂とかに引っ越しする方も多。学力向上という要素は、まちのイメージにとっても重要。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆学力向上に向けた取組（P.59）</p>
<p>・他自治体においても人口減少への取組のひとつとして校区のブランド化に取り組み、ブランド化された校区において人口が増える傾向があると聞き及んでいる。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆学力向上に向けた取組（P.59）</p> <p>◆ICTを活用した教育の充実（P.60）</p>
<p>・学校教育において、コロナ禍の状況等も踏まえ、オンラインへの取組が重要である。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆ICTを活用した教育の充実（P.60）</p>

<p>・学力向上に係る取組については、市がどのような施策に取り組んだとしても、学力を向上させたいと子どもに感じてもらえなければ、学力は向上しない。そのような意味では、子どもが勉強に向かうことができるような気持ちの醸成することが必要。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆学力向上に向けた取組（P.59）</li> <li>◆産官学連携による、子どもたちが熱中できる機会の提供（P.62）</li> </ul>
<p>・戦略を策定しただけではなく実行していくことが大切。</p> <p>・第2期戦略は、人口の社会増を目指すため、子育て世代にいかにして定住してもらうかという課題解決を明確にしたものとなっている。定住という観点からは、小学校に入学する子どもがいらっしゃる家庭が、小学校入学前には転出する状況を改善することが大切であり、そのためには魅力的な学校教育は大切であると考え。その観点では、子育ての部分において、より際立った取組を記載していくべき。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆学力向上に向けた取組（P.59）</li> <li>◆ICTを活用した教育の充実（P.60）</li> <li>◆読書に親しむ環境づくり（P.60）</li> <li>◆子どもを守るネットワークの確立（P.61）</li> <li>◆食育の充実（P.61）</li> <li>◆学校・家庭・地域が一体となった学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の推進（P.61）</li> </ul>

(7) 安心・安全

当委員会の所見	答申への反映事項
<p>・就学児童を子どもに持つ保護者が最も重要であると思ことは、安心・安全な環境に配慮したまちづくりである。</p> <p>その観点において、学校教育において、児童・生徒に安心・安全な環境を与えることができるのか。特に、コロナ禍の中にあってこの要素は切り離せない。取組を進めれば市の魅力発信にも繋がる。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆子育て親子など地域住民が安心して暮らせる「安全なまち守口」をつくるための防犯（P.48）</li> <li>◆「こども110番の家」運動の推進（P.48）</li> <li>◆通学路の安全確保（P.49）</li> <li>◆安全で快適な歩行空間の整備（P.56）</li> <li>◆安全で適切な自転車利用の推進（P.56）</li> </ul>

(8) 住まい

当委員会の所見	答申への反映事項
<p>・守口市は利便性が高い地域であるが、5歳児から転出超過が起こっている。その歯止めになるポイントは、住宅政策ではないかと考える。</p> <p>そのような状況の中、空き家等の再活用が促進できるような仕組みづくりが重要。</p> <p>行政が不動産事業者とともに、プラットフォームを立ち上げて、相談窓口を充実させるなどの取組事例もあるので、参考とされたい。</p> <p>若い世代が求める不動産とマッチングできれば、定住人口の増に貢献できると考える。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆若い世代が魅力を感じる住宅との出会いを支援（P.47）</p>
<p>・守口市においても若い世代に定住していただく住まいの供給は大切であると思うが、京阪電鉄守口市駅前の再開発などを通じたにぎわいの創出など、若い世代の定住に向け、守口市の「まちの魅力」を訴求していくべきであると考ええる。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆守口市駅前周辺の魅力づくり（P.47）</p>

(9) 産業

当委員会の所見	答申への反映事項
<p>・魅力的なイベントを通じて、守口市に愛着を感じられるようにすることは必要。例えば商店街を中心にしたイベントなども市がPRも含めて支援することも一考されたい。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆商店街等による賑わいづくりの取組への支援（P.45）</p> <p>◆魅力的なイベントの開催（P.45）</p>

(10) 具体的な施策

当委員会の所見	答申への反映事項
<p>・守口市は、幼児教育・保育の無償化など子育て支援に力を入れているが、子どもたちが活躍できる場を設けることも一考してはいかがか。</p> <p>例えば、守口ナンバーワンキッズなどのイベントを催し、ナンバーワンを決める。それをPRすることで、子ども（5歳まで）に活躍の場を設けている、子どもにやさしい守口市をPRできるのではないか。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けた。</p> <p>◆魅力的なイベントの開催（P.45）</p> <p>◆産官学連携による、子どもたちが熱中できる機会の提供（P.62）</p> <p>◆子どもが楽しめるイベント等の充実とその情報を発信します（P.62）</p> <p>◆防災ジュニアリーダーの育成（P.63）</p>

<p>・守口市と門真市の広報誌を見比べると、掲載されているイベント数に差があると感じる。また、青少年の育成に対する補助や活動の場所などについて守口市の支援が非常に少ないのではないかと感じる。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けること。</p> <p>◆青少年の活動への支援（P.62）</p>
<p>・第2期戦略に盛り込んでいただきたい具体的な項目が3つある。</p> <p>1つ目は、子育て世代の時間を確保するための職住近接を実現する官民連携等も視野に入れながらの「コワーキングスペース」の整備。</p> <p>2つ目は、英語教育の充実などの各小学校から特色ある教育を情報発信してほしい。</p> <p>3つ目は、守口市は「花と緑の基本計画」を策定されているが、都市計画道路豊秀松月線の整備や大枝公園のリニューアルなど、緑を感じられる場所の充実や子どもが遊べる場所の更なる確保などを盛り込んでいただければ、子育てのまちにも好影響をもたらすことができると考える。</p>	<p>第2期戦略に下記の項目を設けること。</p> <p>◆ワーク・ライフ・バランスのとれた職場づくりに向けた相談や情報提供（P.54）</p> <p>◆男性の家事・育児への参画（P.54）</p> <p>◆新しい生活様式の実践に向けた働きやすい環境の整備（P.54）</p> <p>◆学力向上に向けた取組（P.59）</p> <p>◆ICTを活用した教育の充実（P.60）</p> <p>◆安全で快適な歩行空間の整備（P.56）</p> <p>◆公園をより魅力的な場とする運営（P.55）</p> <p>◆身近な自然に親しめる機会の充実（P.55）</p> <p>◆子育て親子が外出しやすい環境づくり（P.55）</p> <p>◆公園の計画的な整備・改修（P.55）</p>

### 3. 審議経過

回	開催日時	議事内容
第1回	令和2年 7月8日(水)	(1) 委員長・副委員長の選任について (2) 守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る諮問について (3) 意見交換 ①令和元年度の取組における実績報告について ②第6次守口市総合基本計画基本構想(素案)の概要について ③第1期戦略の総括及び第2期戦略の策定に向けて (4) 報告 令和2年度守口市まち・ひと・しごと創生委員会の進め方について (5) その他
第2回	令和2年 9月8日(火)	(1) 意見交換 第2期戦略の取組の体系について (2) 報告 令和2年度守口市まち・ひと・しごと創生委員会の進め方について (3) その他
第3回	令和2年 11月18日(水)	(1) 意見交換 ①守口市まち・ひと・しごと創生本部会議等での意見等について ②第2期戦略における政策体系及び具体的な取組(案)について ③第1期戦略における地方創生拠点整備交付金を活用した事業の効果検証について (2) 報告 令和2年度守口市まち・ひと・しごと創生委員会の進め方について (3) その他
第4回	令和2年 3月16日(火)	<b>【予定】</b> 第2期守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の答申について

#### 4. 守口市まち・ひと・しごと創生委員会 委員

##### (1) 任期

令和2年4月1日から令和4年3月31日まで

##### (2) 委員一覧

No	区分	氏名	現職
1	学識経験者 (条例第3条第2項第1号の委員)	眞鍋 昇	大阪国際大学 学長補佐
2		山口 行一	大阪工業大学 工学部都市デザイン工学科 教授
3		鶴坂 貴恵	摂南大学 経営学部 経営情報学科長
4	商工関係団体の代表者 (条例第3条第2項第2号の委員)	大森 康二	パナソニック株式会社 総務部企画助成課長
5		吉原 起人	京阪ホールディングス株式会社 経営統括室事業推進担当課長
6		宮前 能	守口門真商工会議所 商工振興部 中小企業相談所 課長代理
7	金融機関の代表者 (条例第3条第2項第3号の委員)	佐伯 剛之	株式会社りそな銀行 守口支店長
8		橋本 恒己	株式会社日本政策金融公庫 守口支店長
9		小西 雅晴	枚方信用金庫 地方創生推進部 執行役員 部長
10	市民 (条例第3条第2項第4号の委員)	中本 昇	市民
11		吉田 実和	市民
12		山田 純子	市民
13	市長が適当と認める者 (条例第3条第2項第5号の委員)	岩津 善昭	門真公共職業安定所長
14		林 容子	株式会社エフエムもりぐち 主任
15		中川 一之	守口郵便局長